

京都府福知山市/避難情報発令支援システムの導入

事例概要

避難指示やエリア別災害危険情報の適時的確な発信を目的に、情報を自動収集・判定し、避難指示やエリア別情報を自動発出するシステムを導入。それにより早期に住民へ情報伝達が可能となり、住民の命を守ることができた。

導入前

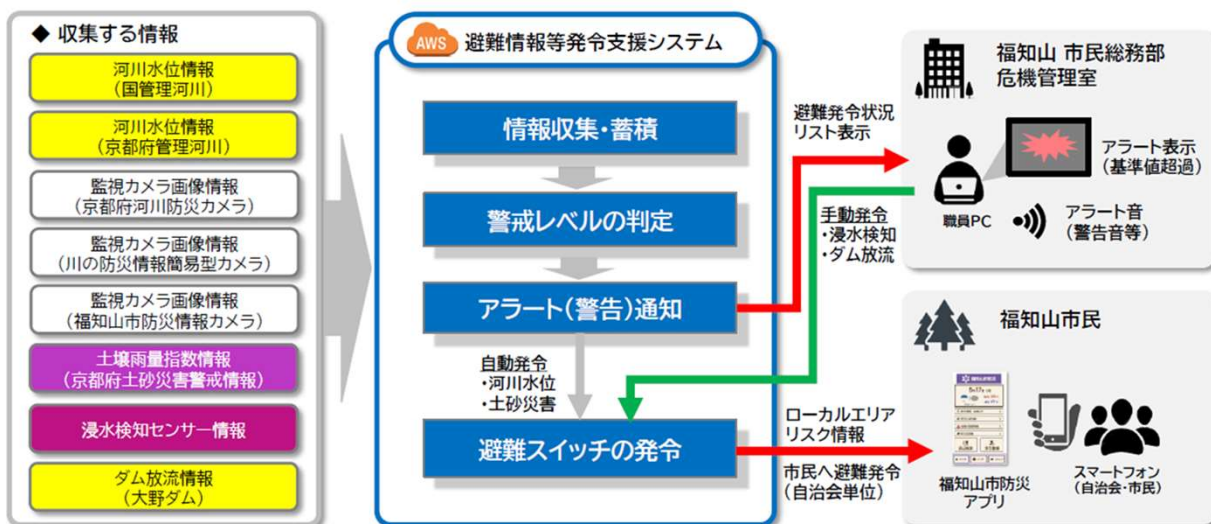
- 地方公共団体等ニーズ：避難情報の迅速な発令
- 上記ニーズの背景：平成30年7月豪雨を踏まえた「避難のあり方検討会」の報告
- 防テクPF活用理由：
 - ①何から手を付けたらよいかわからない。
 - ②企業と作り込む実証実験をしたい。
 - ③実証は2社以上と実施し、実証先は公平な条件で探索したい。

防テクPFの活用状況

- 防テクPF活用メリット：複数社から情報収集ができ公平性を担保。スクラッチで意図したシステムを構築。
- スケジュール：令和3年度にサイト登録、令和4年度に防テクPF上で募集した複数社と実証実験を実施。令和5年度よりシステム稼働、同年の台風対応で避難指示の迅速な発令に貢献。

導入技術概要

「避難情報等発令支援システム」の開発（防テクPFでマッチング）



【システム導入により解決できる課題】

- ① 出来るだけ細分化した地区名(自治会)と合わせた避難発令の実現
- ② 情報収集から避難発令までの時間短縮による初動体制の確立
- ③ 人が情報収集する場合に起こる可能性が有るヒューマンエラーの回避
- ④ 市内の現状(警戒レベルの状況)を一目で把握出来る情報集約と整理
- ⑤ システムで保持する避難スイッチ情報の他業務(個別避難計画等)への活用

導入後

システム活用により、「情報収集」「発令判断」が迅速化。令和5年8月の台風7号においては土砂災害警戒情報情報から避難指示発令までの時間を20分間に短縮。迅速・適切な避難を促し住民の命を守った。

